蘇る殻たち

－ウニ・アワビの殻で特産品作りと島おこし－

鬼脇漁業協同組合青年部
副部長　今　　昭

1，地域の概要

名峰「利尻富士」に象徴される、手つかずのピュアな自然が残る北の島「利尻島」は、年間約70万人の観光客が訪れる漁業と観光の島である。私たちの住んでいる利尻富士町鬼脇地区は、島の南東に位置し海岸線は17Km人口は約2千人の純粋な漁村である。

2，漁業の概要

私たちの所属する鬼脇漁業協同組合は組合員数211名で構成されており、主な漁業は主産地として名高いリシリコンブや日本一の味を誇るエゾバフンウニ・キタムラサキウニを対象とした浅海漁業と、カレイ刺し網やタコいさり曳き等の漁船漁業であり、年間の総水揚げは約5億円となっている。近年、浅海漁業は磯焼け現象によってリシリコンブの資源量が減少し、それを餌としているウニ等の生産量も減少し続けている。また、冬季間はこれといった漁もなく収入が少なくなるため、多くの人達が島外への出稼ぎを余儀なくされている。

3，研究グループの組織と運営

私たちの青年部は、昭和34年に設立され現在部員数17名で構成しており漁協からの助成と会費及び事業収入で運営している。主な活動内容は、雑藻駆除事業・キタムラサキウニ養殖試験・魚類の蓄養産卵孵化放流試験・カキ養殖試験・先進地視察や町内で実施される各種事業への参加等である。

4，研究実践活動課題選定の動機

利尻島の浅海漁業は磯焼け現象により生産量は減少し続けており、その対策としてコンブ増殖を目的とした各種事業を町・漁協が中心となって実施している他に、青年部独自にチェーン曳き雑藻駆除事業等も実施しているが、生産量の増加は期待するほどには至っていない。利尻島には毎年多くの観光客が訪れるが、鬼脇地区にはオタドマリ沼の他に2～3の名所はあるが、特に目立った観光収入を得る施設はない。このような現状のなかで何か新しい活動はないかと検討した結果、水産技術普及指導所で考案したウニ殻やアワビ貝殻を利用した工芸品作りと観光を結びつける活動を試みた。

5，研究実践活動状況及び効果

(1) 製作技術の習得

基本となるウニやアワビ工芸品の作り方を習得するために、一般漁業者にも参加してもら

い水産技術普及指導所による講習会を開催した。アワビの文鎮では足となる部分のシリコンを針を使って整形する技が難しく、なかなか思い通りの形にならず苦労した。

(2) 土産商品の開発

原料となるウニの殻は漁で得たものを、エゾアワビの貝殻は手持ちのものや人工種苗のものを、また、エゾギンチャクの貝殻はホタテガイ天然採苗で得られたものを確保した。

ウニの文鎮はそのままでも商品となったが、アワビはまるで『食堂のサンプル』の様で台座になるものが必要となり何を使うか迷った結果4種類の商品が出来た。特に、島ではアクセサリー用品等の専門の店がないために思うように材料が手に入らず苦労した。このような試作を繰り返し8種類の商品が出来上がった。

(3) 店頭販売

青年部員の一人が7月から自分の漁具保管倉庫を改築して営業を開始した、とれたてのウニ・タコ・ホタテガイ等を調理して出す食堂の観光土産品を販売するコーナーに、これら試作した商品を展示販売した。　商品別の販売数は次の通りである。

エゾアワビ文鎮27個、エゾアワビキーホルダー60個、エゾアワビマグネット20個
エゾアワビ置物10個、キタムラサキウニ文鎮　200個、エゾバフンウニ文鎮　70個
菓子入りエゾギンチャク30個、エゾギンチャクペンダント40個

この内、キタムラサキウニ文鎮は「利尻島で活ウニを食べた記念」として、また、手にした客達は珍しさに加え表面の突起により「掌のツボが刺激されて心地よい!」と、まるで健康器具のようだといって購入した。しかし、アワビの文鎮や置物は地元では人気があり店のインテリアとしている飲食店もあるが、街の人たちの趣味に合わなかったのか、また、高額な商品と思われたためか手にすることさえあまりなく販売個数は少なかった。一方、小さなアワビの人工種苗を利用したキーホルダーは、主にオートバイや自転車で旅行している客が愛車のアクセサリーとして購入した。以上約3ヶ月間販売した結果、販売金額は約32万円、販売利益は約23万円であった。

(4) 『海中牧場自然体験イベント』への参加

日本海地域漁業振興ビジョンとして計画されている、港湾施設を利用した漁業と観光とのタイアップをめざした『海中牧場計画』の一環として、海とのふれあいを目的とした『海中牧場自然体験イベント』が、鬼脇漁協主催により7月20日の『海の記念日』に開催された。

私たち青年部は、地元のこどもたちを対象に磯船でのウニ採り体験や、磯に生息している巻き貝等を使った置物作りの指導を担当した。ウニ採り体験では、初めて磯船に乗るこどもも、のぞきメガネで見る海底に感激しながらウニを抱えきれない程採ったり、置物作りでは私たちの考えも及ばない自由な発想で楽しそうに幾つもの作品を作るこどももいた。これらの作品は夏休みの自由研究として学校に提出された。

(5) 『潮風体験ツアー in Rishirifuji』への参加

地域活性化のための中核的組織の役割を担う目的で本年度『利尻富士町地域活性化支援協議会』が組織され、一般旅行者を対象とした漁家での滞在生活や漁業体験による漁業と観光をタイアップさせた『潮風体験ツアー in Rishirifuji』が7月21日から実施された。私たち青年部員はこのツアーの『お土産つくり教室』の講師を依頼され、ウニ・アワビの文鎮作り指導を担当した。参加した11名の独身女性達は、初めてアワビを見たという人やウニ殻の

複雑な構造に感激する人もいて熱心に説明を受けた後、慣れない手つきでウニ文鎮の仕上げやアワビの足となるシリコンの整形を何度も挑戦するうちに、指導した自分達よりも良い作品を作る人もいて、みな島の想いでと一緒に持ち帰った。

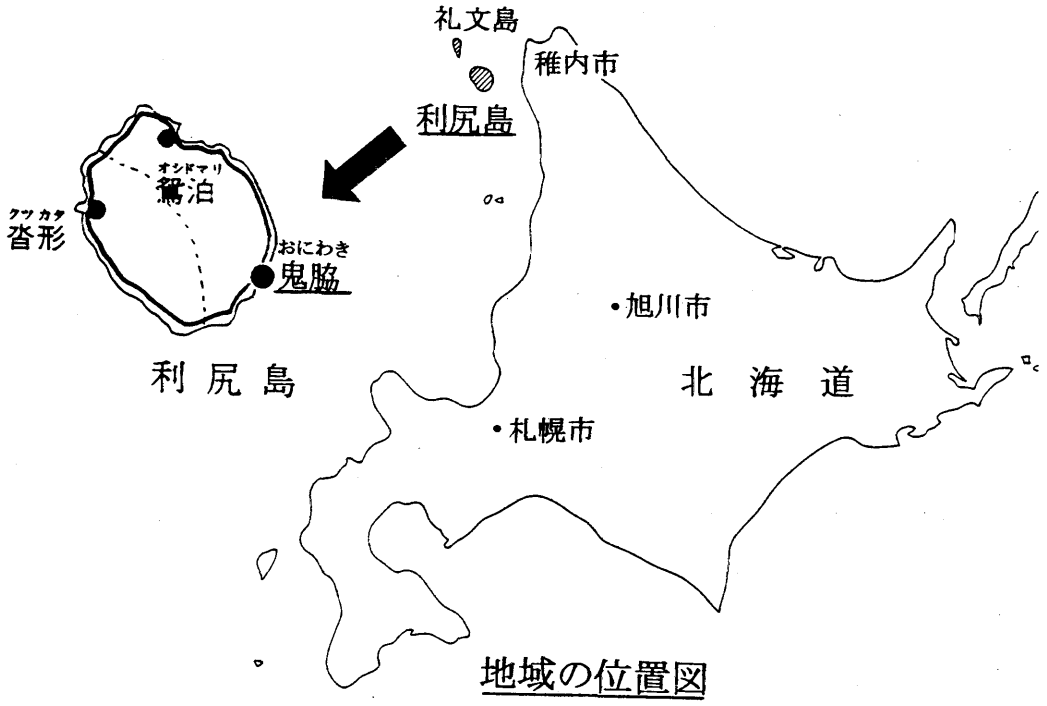
6，波及効果

今までウニやアワビ等の殻は、身を剥いた後あるいは歩留まりや色の悪いものは廃棄されるだけで全く利用価値がなかった。しかし、活動の結果、商品として蘇らせ利尻島の特産品として販売する事で未利用資源の活用となった。また、開発した商品の製作方法を就労機会が少なくなる冬季の仕事として、また重労働の出来ない高齢者等に広めていくことにより新たな収入源となる。

地元のこどもたちや一般旅行客に工芸品作りを体験してもらう中で、自然に囲まれた生活の豊かさと充実感を実感してもらえたことにより、担い手育成の効果が期待出来る。

7，今後の課題

婦人や高齢者へ製作技術を普及する
殻等の原材料確保
商品のネーミングと新商品の開発
販路の開拓とPR
特許権等の申請手続き

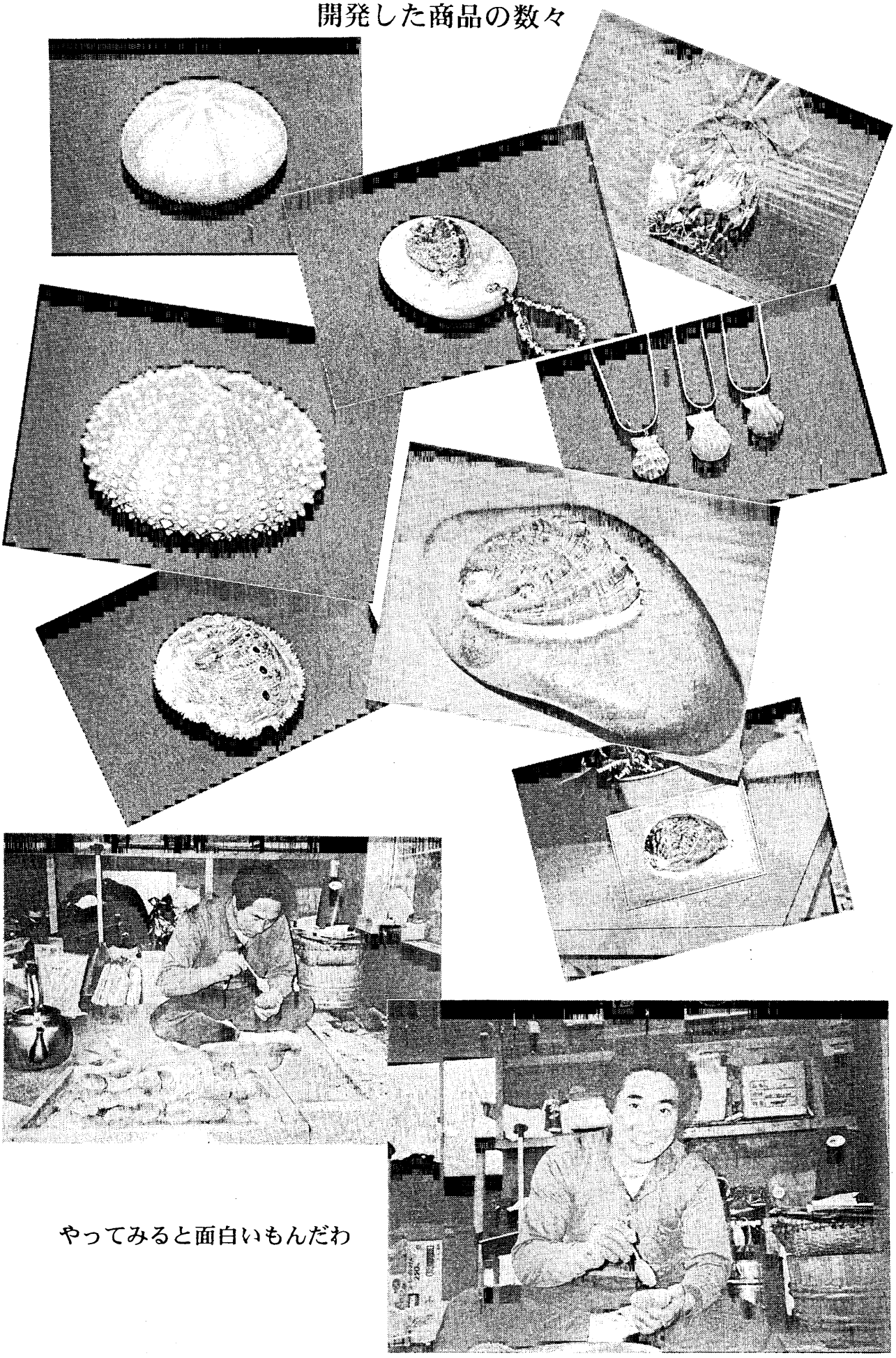


地域の位置図

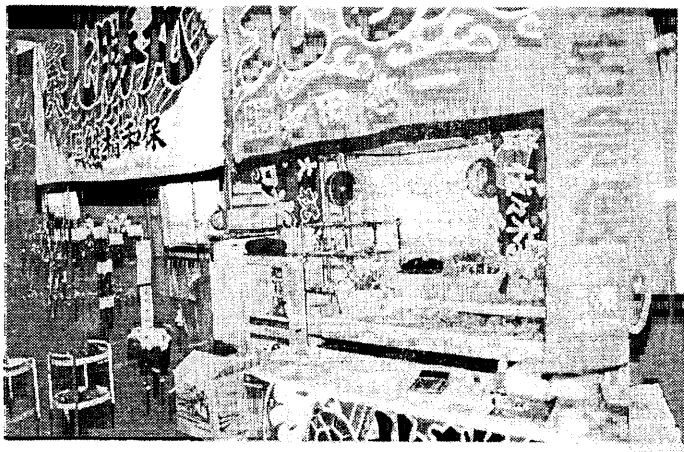
漁村セミナーで製作方法の習得

なかなか難しいもんだな！おい

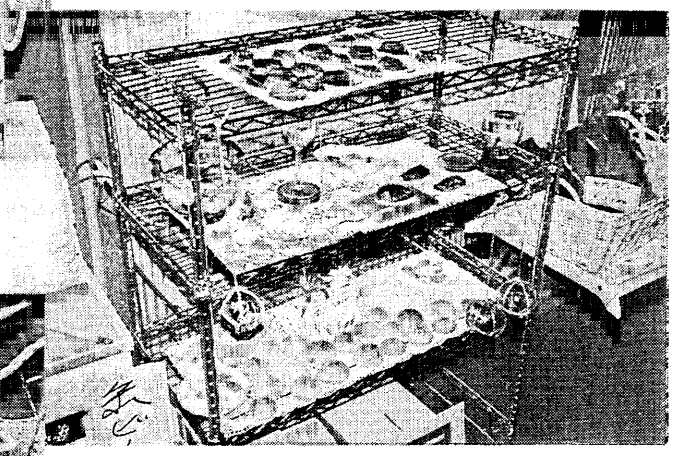
開発した商品の数々



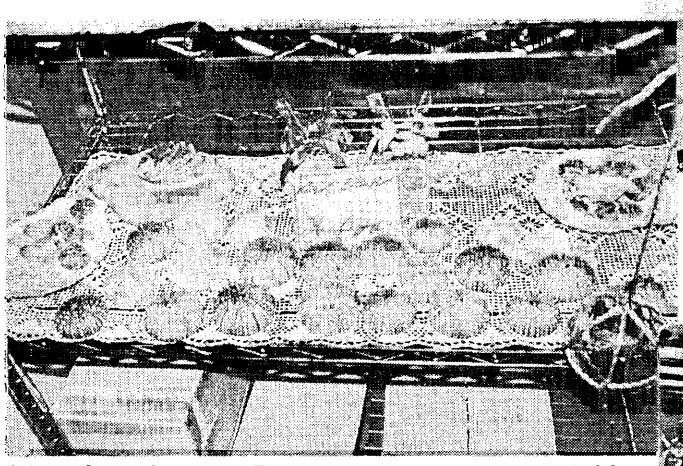
やってみると面白いもんだわ



青年部員が倉庫で開いた飲食店

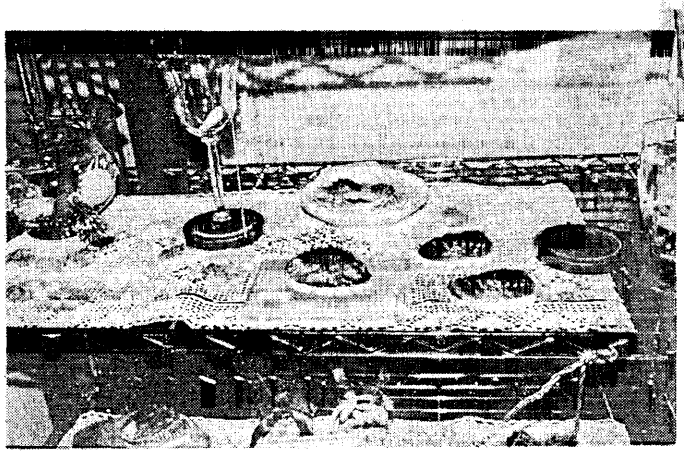


土産品販売コーナーに展示した品々

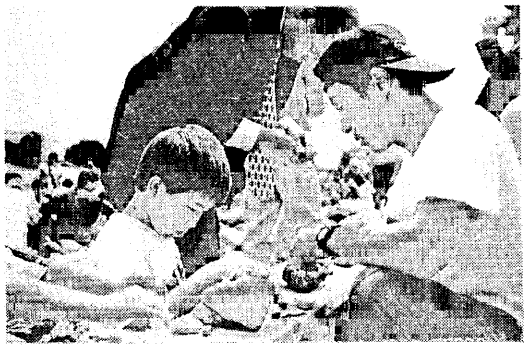


最も多く売れた『キタムラサキウニの文鎮』

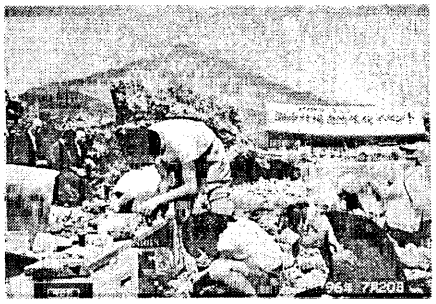
「ウニ！ウニ！ウニ！」
と感激のお姉さん達



この『アワビの置物』は地元の飲食店主が購入し
店の装飾品にしている



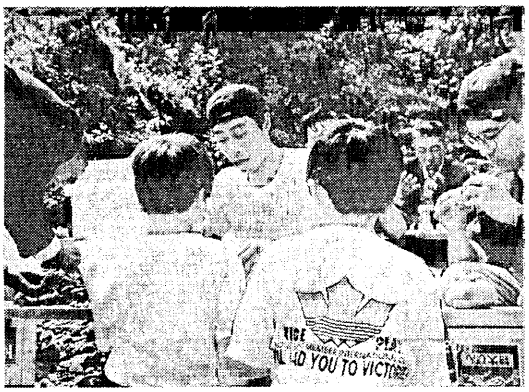
ぼく、うまいんでないの！



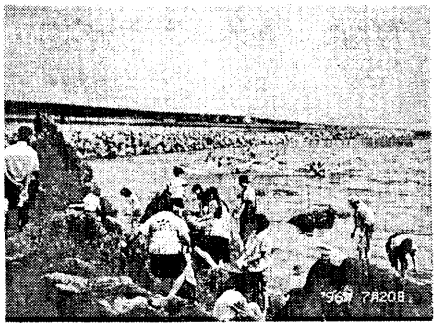
海中牧場自然体験イベント

どこに付けたらいいべか

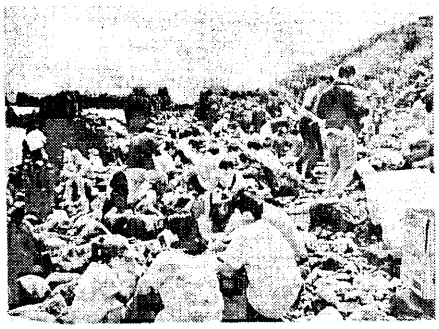
おじさん、これ、いいっしょ！



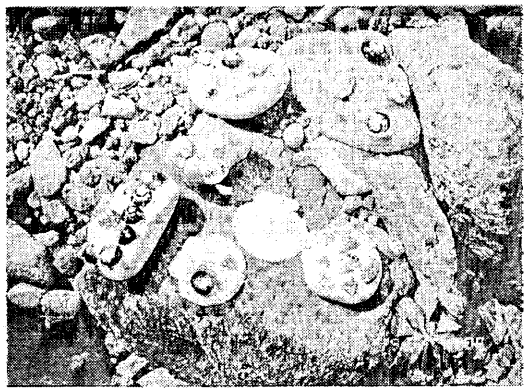
こうしてな、貝にボンドを付けてな・・・



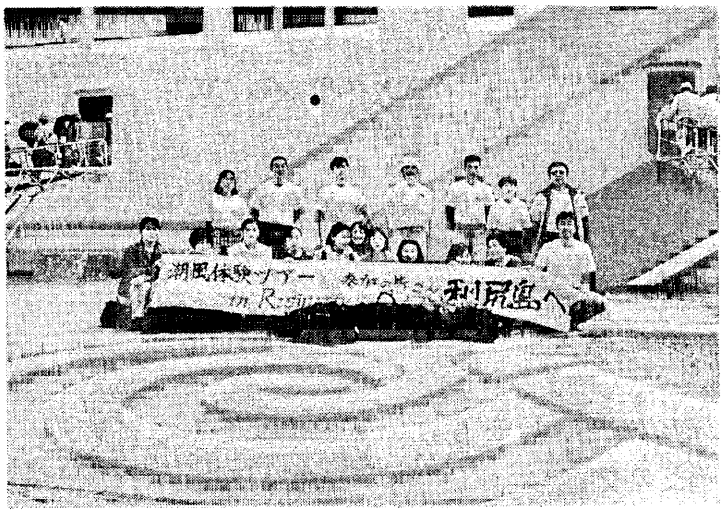
磯船や渚でのウニ採りに夢中



ハマ遊びを満喫したこども達



力作は、夏休みの自由研究に提出



『潮風体験ツアー in Rishirifuji』で来島した独身女性達

アワビの文鎮に挑戦

「あぃやー、おれらよりうまいんでないの！」

島のお姉さんになった感じみたいな